

ふるさとの文化財にふれてみませんか 滑川の文化財

滑川市には国指定2件、国登録4件、県指定1件、市指定27件の文化財があります。また、これらの指定文化財以外にも貴重で魅力にあふれ、時代の息吹を今に伝えてくれる文化財が数多く残されています。

10月に出版しました『伝えたいふるさとの記憶—滑川の文化財』で取り上げた文化財の中から代表的なものを市民の皆さんに鑑賞していただくために展覧会を開催しています。数々の文化財を通じて、私たちが愛してやまない「ふるさと滑川」の歴史・文化・自然を再認識してみませんか。



銅製経筒【個人蔵】

経筒は経典を入れて埋める容器で、室町時代後期に大島新に埋められたものです。



帝釈天【堀江町内会蔵】

室町時代の中国(明朝)製と推定される立山信仰と関わりのある青銅製の像です。



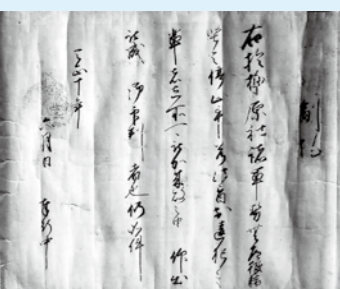
獅子頭【菟輪町内会蔵】

菟輪に伝わる獅子舞は、旧利賀村百瀬から伝えられたといわれています。



テスモスチルスの臼歯【市立博物館蔵】

菟輪周辺の地層から発見された歯の化石です。テスモスチルスは草食性の哺乳類で、中新世に生息していました。



**上杉景勝の「制札」
【櫛原神社蔵】**

上杉景勝が魚津城を奪還したあと、櫛原神社に発給した制札で、社地内の治安維持を保障したものです。



伝えたいふるさとの記憶—滑川の文化財展

とき 11月22日(日)まで 10:00～18:00

※2日(月)・4日(水)・9日(月)・16日(月)は休館

ところ 図書館3階催事室

入場料 300円(高校生以下・障がい者無料)

主な展示資料

本江遺跡出土品、東福寺焼窯跡出土品、上杉景勝の「制札」、桐沢家文書、河崎家文書、帝釈天、売薬民俗資料、柔遠自筆文書、不水掛遺跡出土品、魚躬遺跡出土品、蜷川観月「岩上の虎」、櫛原神社文書、岩城家文書、獅子頭、本江神社の絵馬、俳諧関係資料、化石ほか

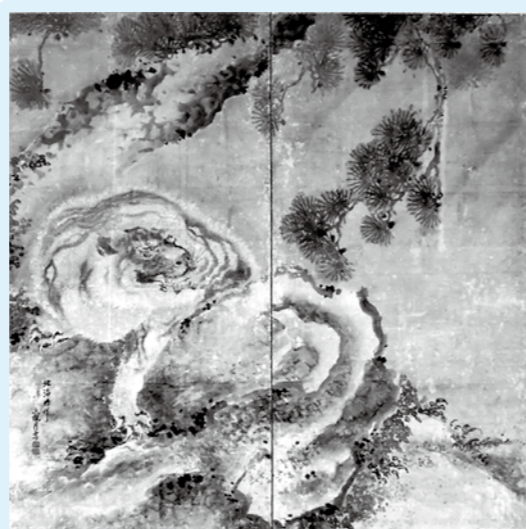
<資料解説> 11月8日(日)・21日(土) 14:00～
(直接会場にお集まりください)

『伝えたいふるさとの記憶—滑川の文化財』出版

『伝えたいふるさとの記憶—滑川の文化財』を出版しました。今回の展覧会に出展できなかった文化財を含む全75項目を写真とともに解説付きで紹介しています。文化財一覧表、文化財マップ付き。

料 金 1部800円(124ページ)

販売場所 図書館(展覧会場)・博物館



蜷川観月「岩上の虎」【称永寺蔵】

京都画壇の岸派で学んだ蜷川観月の立体的で迫力ある虎図で、称永寺(常盤町)に所蔵されています。

問合せ先 博物館 (☎474-9200)



八嶋大合戦絵馬【本江神社蔵】

後に富山藩お抱え絵師となる松浦応真守美が18歳の時に描いた作品で、本江神社(本江)に奉納されています。



右大臣・左大臣、狛犬(対)部分【加積神社蔵】

加積神社(上小泉)の社宝として伝わっている4体の木像で、鎌倉時代の作と推定されています。



釈迦如来三幅図(部分)【瀧城寺蔵】

徳城寺(四間町)の寺宝で、室町時代中期の作と推定される釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩の三幅図です。



岩城庄之丈儀礼用道具【市立博物館蔵】

儀式に使用した鉞(ちょうな)などです。東本願寺の再建をはじめ全国で活躍した堂宮大工の岩城家に伝わった資料です。



東福寺焼製品【市立博物館蔵】

東福寺焼は、江戸時代後期から明治初年にかけて製造されていたやきものです。